



27 生消生第 4 2 3 号  
平成 27 年 1 2 月 1 6 日

一般社団法人日本玩具協会  
会長 富山 幹太郎 様

東京都生活文化局  
消費生活部長 山本 明



子供に対するコイン形電池等の安全対策について（提案・要望）

日頃より、東京都の消費生活行政に御理解と御協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

さて、東京都は、本年 7 月から消費者団体、事業者団体、学識経験者等で構成する「東京都商品等安全対策協議会」において、「ボタン電池等の安全対策」について検討してまいりました。

この度、協議会から東京都に対し、別添のとおり報告があり、ボタン電池等の誤飲により重症事故が発生している実態が明らかにされ、安全確保に向けた取組が必要であるとの提言がなされました。

特に、ボタン電池等の中でも直径 20mm の『コイン形リチウム電池』の誤飲は食道に留まり潰瘍をつくるなど、最悪の場合、死に至る危険性があり、それを消費者へ強く訴えていく必要があるとされました。このため、今回の提言では、「ボタン電池等」を「コイン形電池等」と表記しております。

コイン形電池等の誤飲事故防止を図ることが喫緊の課題であり、この報告を受け、東京都は、関係事業者団体等に対して早急に安全対策を講じていただくよう、提案・要望を行うことといたしました。

貴職におかれましては、下記の事項について推進されますよう、提案・要望いたします。

記

1 コイン形電池等使用製品に関する安全対策

(1) 製品の電池室のふたの安全基準の強化及び安全な商品の開発

協議会のアンケート調査では、「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」経験のうち、2 割強が電池使用製品から電池が外れたものであり、子供がいじって取り出したもののほか、子供が電池室を壊したり、製品が落ちて電池が外れているものがあつたことから、電池室の安全対策は、電池室をねじ止めしたり、2アクションで開くなど、電池室の構造に加え、その強度についても考慮する必要がある。

コイン形電池等使用製品のうち、JIS 規格が存在する製品については、

オーディオ機器の国際規格 IEC62368-1 に準拠するなど、ねじ止めや、2アクションで開くなど、子供が開けにくい電池室の構造に加え、子供が電池室を壊したり、製品が落ちても電池が飛び出さないよう強度にも配慮した電池室の安全対策を盛り込んだ改定を行うこと。また、JIS 規格のない製品については、国際規格 IEC62368-1 や電池工業会のガイドライン等に準拠し、電池室の構造や強度にも配慮することなど、団体としての指針を示し、安全基準の強化に努めること。

さらに、JIS 規格化の推進や安全基準等の公表を通じて、コイン形電池等の危険性及び誤飲防止に向けた安全対策の重要性をアピールすることにより、事業者団体に加盟しない製造事業者によるコイン形電池等使用製品の安全対策の推進が期待されることから、コイン形電池等使用製品の安全基準や指針について積極的に公表していくこと。

コイン形電池等は今後も防犯、防災や医療等の分野でも活用されていくことから、コイン形電池等の使用が必要な製品は、国際規格 IEC62368-1 や電池工業会のガイドライン等に準拠するなど、電池室の適切な安全対策を強化すること。特に、誤飲する危険性の高い乳幼児が触る製品については、安全対策を最優先とし、コイン形電池等を使用しない設計の採用を選択肢として検討するなど、製造事業者の安全な商品開発を推進すること。

安全対策の具体的な基準作成、運用に当たっては、国際規格 IEC62368-1 や電池工業会のガイドライン等を基に、子供の年齢だけでなく、落下条件や製品の形状・構造によって、得られる加速度にバラつきがあることから、落下試験によって製品の電池室の強度を確認する場合は、落下試験のみによる評価で十分であるか、また、加速度のバラつきが生じる要因を考慮した上で、試験回数や落下条件などの試験手順を決めるといった検討をするなど、十分に留意すること。

## 2 消費者の安全意識の向上

### (1) コイン形リチウム電池の誤飲の危険性の周知徹底

協議会のアンケート調査では、コイン形リチウム電池の誤飲が「死に至ることがある」ことを知らない人が半数以上おり、この危険性について、さらなる周知を図るとともに、誤飲の未然防止に向けた注意喚起について積極的に取り組む必要があることから、あらゆる機会を活用し、コイン形リチウム電池の誤飲は、「死に至ることがある」危険性について消費者への周知徹底を図ること。周知徹底に当たっては、協議会の実験画像を活用し、視覚的に訴えるなど、消費者に分かりやすい注意喚起を積極的に行うこと。

商品パッケージの表示のほか、ホームページへの掲載やリーフレットの作成、イベント開催時における広報などあらゆる機会を捉え、コイン形リチウム電池の誤飲は「死に至ることがある」危険性があることを消費者に届くよう、繰り返し周知を図ること。

### (2) 消費者への積極的な注意喚起

協議会のアンケート調査で、約 6 割の人はコイン形電池等に記載の注意表記を見ていないことや、誤飲の危険性について未だなお認知していない人も約 3 割おり、周知が十分とはいえず、消費者への積極的な注意喚起

が必要であることから、消費者の安全意識を向上させるため、協議会の調査から明らかになった消費者の使用実態等を踏まえ、消費者の行動に結びつく具体的な安全対策の情報提供のほか、消費者にとって分かりやすく、浸透しやすい注意喚起を積極的に行っていくこと。

### (3) 消費者の行動に結びつく具体的な注意喚起

注意喚起に当たって、協議会の調査から得られた消費者の使用実態や「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」経験が起きた状況等を踏まえ、より具体的な注意喚起を行い、誤飲事故防止に向けた行動に結びつく啓発を行っていくこと。また、協議会の調査では、ヒヤリ・ハットを含め、事故が発生した場合に、大半の人は、事故が起きたことについて、製造事業者や消費生活相談窓口へ報告や相談をしていないことから、誤飲事故が起きた際には医師や日本中毒情報センターなどに相談するだけでなく、さらに同種の事故を防止するため、事故時の対応結果等については、製造事業者や消費生活相談窓口へ情報提供する旨も注意喚起していくこと。

○コイン形電池等の危険性及びその取扱いについての具体的な注意喚起事項  
協議会のアンケート調査により明らかになった消費者の認識や使用実態を踏まえ、以下の事項について注意喚起する。

- ・「電池は幼児の手の届かないところに置く」「電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談する」など、コイン形電池等の警告表示事項を守る
- ・保護者が、子供が電池を誤飲する瞬間を見ることは少なく、誤飲しても症状は胃のむかつきや微熱といった子供によく見られるものであり、発見が遅れるという問題がある。そのため、誤飲が疑われる場合は、躊躇することなく、すぐに医師に相談する。
- ・引き出しにしまうなど、コイン形電池等の保管場所を所定の場所に決めていても誤飲の「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」事例が起きていることから、子供のいる家庭では、必要以上のコイン形電池等は買い置きをしない。
- ・保管する場合は、子供の手の届かない場所でパッケージに入れたまま保管する。子供の手の届かない場所とは、届かないと保護者が判断するのではなく、手の届く範囲のデータ（「子どものからだ図鑑」報告書資料 9-1）等に基づいた子供の手の届かない場所や、鍵のかかる引き出しなど、確実に子供が手に触れることができない場所とするとともに、家族で保管場所を決め、コイン形電池等の数を確認する。
- ・子供の見えるところで電池交換をしない。また、電池交換時に短時間放置する「ちょい置き」も絶対にしない。
- ・使用済みのボタン形電池は回収缶に、コイン形電池は各自治体で定められた方法で速やかに廃棄し、できるだけ保管をしないようにする。やむを得ず、使用済みの電池を廃棄するまで保管する場合はテープを巻いて絶縁した上で、未使用の電池同様、十分に注意して保管する。
- ・購入時に必ず注意表示を確認する。

#### ○コイン形電池使用製品の取扱いについての具体的な注意喚起事項

消費者がコイン形電池等使用製品を購入する際に、電池室の安全性を確認し、安全対策が施された商品を選択できるよう、消費者に対し普及啓発を行うこと。

消費者のコイン形電池等使用製品の使用に当たって、誤飲防止のため、誤使用の禁止、対象年齢の徹底、兄弟がいる場合の注意など、以下の具体的な注意事項について積極的な情報提供を図ること。

- ・コイン形電池等使用製品を購入する際には、電池室の安全性について、電池室の構造、衝撃に強いことや電池室を開けた際に電池が飛び出さないこと等を確認し、安全対策が施された商品を選択する。
- ・おもちゃを購入する際には、ST マーク適用製品など、安全に配慮されたものを選択する。
- ・おもちゃ以外のコイン形電池等使用製品は、遊び道具としないなど、子供に触らせない。
- ・おもちゃについて、電池室が壊れているものは使わせない。定期的に点検を行う。
- ・子供に対し、コイン形電池等の誤飲の危険性や取扱いについて、分かりやすく伝える。
- ・兄弟姉妹がいる場合は、おもちゃの対象年齢の徹底を図るとともに、兄や姉がコイン形電池等を取り出さないよう留意する。
- ・誤飲事故の早期発見のため、家庭にあるコイン形電池等使用製品の数、使用するコイン形電池等の種類、数を確認する。

### 3 消費者への効果的な普及啓発

下記の観点も踏まえ、消費者に効果的な注意喚起を行っていくこと。

- (1) コイン形電池等の誤飲の危険性及び誤飲防止のための注意事項については、消費者に広く注意喚起できるよう、あらゆる機会を捉え、様々な媒体を活用した広報を行うこと。
- (2) 乳幼児を持つ若い世代の多くは、インターネットやソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（SNS）を利用していることから、インターネットやツイッター、facebook などの SNS、例えば「子育て応援サイト」や「子育て応援ナビ」などを有効活用し、ユーザー側からの情報発信を促進するなど、対象に届く効果的な広報を展開していくこと。
- (3) 子供向けのイベントや子育て支援イベントなど、乳幼児を持つ世代が多く集まるイベントと連携し、さらに、協議会の再現実験の映像や写真などを活用し、誤飲の危険性を視覚的に訴えるとともに、購入時における安全な商品の選択、家庭でのコイン形電池等やコイン形電池等使用製品の取扱いに係る注意事項などについての普及啓発を図ること。
- (4) 啓発は保護者だけでなく、祖父母や周囲の人も含めた幅広い層に対し、繰り返し行っていくこと。
- (5) 都が把握した事故事例では、0 歳児、1 歳児が約 8 割を占めていることから、コイン形電池等の誤飲の危険性や、誤飲防止に向けたコイン形電池

等やコイン形電池等使用製品の取扱いに係る注意事項について、出産前  
や出産直後に情報が行き届くような普及啓発を積極的に図ること。

#### 4 事故情報等の収集と活用体制の整備

##### (1) 業界としての相談窓口の周知徹底と事故情報データの活用

コイン形電池等の誤飲に関する事故情報は、ヒヤリ・ハット経験を含め、  
報告や相談がされにくく、商品の改善や基準の改定につながりにくい状況  
にあるため、関連機関等との連携による事故情報の収集に努め、受け付け  
た情報の共有や活用の仕組みを整えていくこと。

また、事故について、消費者の意識不足や誤使用や不注意とするだけで  
終わらず、収集した情報を商品改善等につなげ、安全性の高い商品の普  
及に努めること。さらに、商品改善などに伴い、使用実態も変わっていく  
ことも想定されるため、事故情報の収集は継続的に行い、商品改善等の効  
果について定期的に検証することで、更なる事故の未然・拡大防止につな  
げていくこと。